

令和3年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日時：令和4年1月15日（土）13：00～15：30

場所：NHO 埼玉病院 本館2階大会議室、Web 会議

出席

国臨協関信支部

吉田茂久支部長、椎名將昭副支部長、遠藤隆副支部長、梅戸克之事務局長、井田貴明理事、市川遼理事、岡村康子理事、木津谷亮理事、松林秀弥理事、竹内智也理事、中嶋菜緒美理事、前島基志相談役、山崎正明監事、瀬下明子監事

地区会代表

茨城地区会：後藤信之会長、栃木地区会：林元久会長、群馬地区会：松井孝男会長、埼玉地区会：佐藤紀之会長、千葉地区会：会田春光会長、東京地区会：山崎剛会長、東京・山梨地区会：山田晶会長、神奈川地区会：樋口晶子会長、新潟地区会：宮澤寿幸副会長、長野地区会：内川正弘会長

1. 開会の挨拶（遠藤副支部長）

2. 支部長挨拶

日頃より当会の運営に対して多大なるご支援ご協力を賜り心から感謝申し上げます。本日はお休みのなかご出席いただき誠にありがとうございます。そして本年もどうぞよろしくお願いいたします。本日は年に一度開催される地区代表者会議となります。本来であれば皆様方にご参集いただき対面方式の開催を検討してまいりましたが、1月に入りオミクロン株による新型コロナウイルス感染拡大が問題視されており、急遽 Zoom を用いての Web 会議方式とさせていただきました。皆様方に直接お会いしてご意見など伺うことができず、大変残念ではありますが本会議は支部活動がより活性化していくための重要な会議となりますので Web 会議となりますが、地区代表者の皆様方には忌憚のないご意見を出していただき活発な討議をしていただきたいと思います。限られた時間となりますが、何卒どうぞよろしくお願いいたします。

3. 臨床検査専門職挨拶

本日は新型コロナウイルス感染症第6波のオミクロン株等が流行するなか Web での地区代表者会議の開催となっております。ご出席していただいている各地区代表者の方々におかれましては新型コロナウイルス感染症業務対応多忙のなか、ご参加いただけますこと心より感謝申し上げます。昨年の各地区会を振り返りますと新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から行動制限により地区会活動が極端に縮小され一時停止せざるを得なかった一昨年前と比較しまして、いくつかの地区会では地区会の皆様の創意工夫により Web を利用した新しい方法での開催などを実施され少しずつではありますが活動再開に向けた取り組みが始まりつつありました。専門職の伝達事項といたしまして講演依頼がオンデマンドであったり、リアルタイムの Web 開催であったりするなか新しい取り組

みとして皆様の伝達事項に公平性を保たせるための観点から録画、録音されたファイルを用いまして講演を試みております。実施方法の賛否はあると思いますが、今後も続くことが予想されます行動制限に対応しながら、さらなる新たな方法を模索して地区会の活動の活性化につなげていきたいと思っております。関信支部の活動につきましては支部の皆様のご協力により Web を利用した学会、研修会が再開され始めています。Zoom を用いた Web 学会はライブ配信とオンデマンド配信のハイブリッド開催で会員の皆様ご自身の予定や事情にあわせて参加できること、地区会ポスターや新たな試みの新人紹介はじっくり見ることができるといったことと、多くの情報量を保たせることができるようになり、多くの利点を感じております。直接お会いして情報交換の場としての寂しさは拭いきれませんが大成功だったのではないかと思います。そして今年は第 50 回の記念学会を控えています。各地区会の皆様のご協力のもとにさらなる工夫をもって成功に導ければと思っております。私たち臨床検査技師を取り巻く医療業界でも医師の働き方改革のタスク・シフトシェア、研修を受けることにより実施できる新たな業務、あと後進育成に関しましては臨地実習指導者の配置、そして今年も続くであろう新型コロナウイルスへの対応等で多くのことを求められています。私といたしましても速やかな情報提供に努めますとともに、有効な方策を講じて参りたいと思っております。また、この後の討議のなかで何か追加情報としてご提示できる情報がありましたら、お話をさせていただこうと思っております。

4. 令和 3 年度関信支部役員・地区代表者自己紹介

5. 関信支部経過報告

資料は事前に配布し、当日は Zoom 画面共有にて PowerPoint を用いて報告した
追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行い、PowerPoint は後日配信となった

1) 事務局

本年度総会員数（会費納入者数）は 688 名であり、昨年より 18 名増え過去最多会員数となった。組織の充実、事務管理の向上、関係協議会との連携、関連諸団体への提言活動、文化活動、令和 3 年度関信支部 Zoom 使用実績、Web 会議ツール (Zoom) 導入における費用対効果の検証について報告した。

2) 学術

学術・技術の振興、学会運営、学術委員会の充実、関信グループ研修会へのサポート、関信支部地区定期総会等の開催サポートについて報告した。また第 49 回関信支部学会は Zoom ウェビナーを利用しライブ方式にて開催した。学会特設サイトを設け、地区会コーナーや新人紹介コーナーにて各地区会の活動状況などについて掲載を行い、会員間に情報交換の場を提供した。

3) 広報

国臨協関信支部ニュースは令和 3 年 11 月までに紙媒体として 2 回、PDF 版 (人事異動：令和 2 年 11 月 2 日～令和 3 年 4 月 1 日付) を 1 回発行した。昨年度から引き続き「集まれ若手技師～How about your work～」等、若手技師に向けた記事を掲載した。また「Case study」において、ホームページ

に掲載している解説へスマートフォンでも閲覧しやすくなるようにホームページの QR コードを掲載および学会の Web 上に会員の皆様へ症例募集を行う等、会員の皆様との相互利用の場として紙面の向上に取り組んできた。

ホームページに関してはアクセス数、アクセス先の解析、更新状況について報告した。

6. 監査報告(前期)

支部規約第 17 条に基づき、9 月 25 日(土) NH0 埼玉病院において、令和 3 年度前期分の会務および会計について監査を実施した。支部からは吉田支部長、椎名副支部長、遠藤副支部長、岡村理事(会計担当)の 4 名に対応いただいた。会務については定期で行われている常任理事会の Web 会議が定着し、今年度は第 49 回関信支部学会も初めて Web 方式で開催され新たな時代への進化を感じることができた。第 1 回研修会、第 49 回関信支部学会はライブ配信とオンデマンド配信も行われ、多くの参加者があり盛会であった。学会は Web 方式で、新人の皆様もあまり緊張せずに発表されていた印象を受けた。会員の皆様も Web 方式はすでに慣れている状況である。オンデマンド配信は個人の都合に合わせて参加できる便利な方式なので、今後も継続していただきたい。但し、学会では初めての試みということで事前案内から当日の発表、質疑応答や参加者の把握など問題点や今後に向けた課題も浮き彫りになった。会員に向けて対処方法を報告する等、検討する必要がある。初めての試みは予想できない様々な困難があったことと推察いたしますが、学会賞選考委員・学術委員会・支部役員の皆様が力を合わせてやり遂げられたことに心服する。また地区会コーナーが新たに PowerPoint 方式で開催され、各地区が工夫を凝らした力作が多く、多くの会員に見てもらえるようになったことは大変良かったと感じる。関信支部ニュースやホームページなどの広報関連も、紙面の刷新やスマートフォンでも閲覧しやすい等の工夫をされていて新しい状況への順応性を感じた。会計については、COVID-19 の感染状況により行動を変更せざるを得ない事情も多々あったようですが、帳簿、領収書類、通帳を照合させていただき、適正に処理されていることを確認した。また、今後の活動については学術委員会を中心に、研修会や昨年度は開催できなかった症例検討会も予定されている。COVID-19 の流行状況により、今後の活動方針も変更を余儀なくされることがあるかも知れませんが、吉田支部長はじめ支部役員の皆様には引き続きご尽力いただき、会員の皆様のために新たな挑戦をお願いする。

7. 各地区会経過報告

資料は事前に配布し各地区会より提出いただいた

1) 各地区会報告

各地区会代表者より組織状況、活動状況、会議関係、広報活動、学術関係、文化活動関係等の報告が行われた。

質疑として関信支部会員数と各地区会の会員数のずれについて問われた。関信支部会員数は国臨協会員数と同じであり、地区会は国臨協に属していない職員も所属する場合があることからずれが生じると回答した。

8. 各地区会提出議題

資料は事前に配布し、当日は Zoom 画面共有にて PowerPoint を用いて報告した

追加発言および質疑応答がある場合のみ討議を行い、PowerPoint は後日配信となった

1) 事務局関連(会員交流を含む)

(1) Web 会議が主流になっており、交通費等が節約されるので会費の値下げをお願いしたい

A: 次年度は、コロナ禍の現状を踏まえて、Zoom ウェビナー契約を継続し、研修会(支部・地区会)、Web 会議(支部・地区会)などに活用していく。また、関信支部学会が第 50 回の記念学会となり、新たに EventIn 配信(V-CUBE)や特別講演等も企画する予定でいるため、会費の値下げは考えていない。原則、第 50 回記念学会の参加費は徴収しない方向で検討している。

(2) Web を取り入れて簡便に会議や研修会などが開催できるが、理事の方々への負担が過度になっていないか。本来業務に影響がないか。

A: 集合型の理事会や研修会と違い、開催施設へ日常業務を休んで出向く手間が削減されたことと、基本的には、最大限 Zoom ウェビナーを活用し、理事会等は日常業務が終了した 17 時 45 分以降に開催をしている。また、研修会は、休日(土曜日 13:00~) 集合型で開催していたが、今年度は、Zoom ウェビナーを活用したオンデマンド配信を中心とした研修会になっており現地での準備、運営、撤去作業等も無くなり、負担は軽減されていると考えている。個人に過度に負担がかからないように、業務を分担して会務にあたっている。本来業務に影響がでない支部活動になるように、今後も、事業計画の見直しや会務の効率化を進めていく。

(3) 会員相互の親睦に Web 等を利用した交流の場を検討しとあるが、実際は会話が一方通行になりがちになるが、どのような計画をしているのか

A: 今年度は学会にて期間限定とはなりましたが、学会特設サイトを設け、PDF(PowerPoint 版)という形で地区会ポスターを作成していただき、Web を利用した各地区会による交流の場を提供した。また、Zoom ライセンス契約により各地区会に Web 環境を提供したことは、集合できない時世において総会や研修会を行える交流の場であったと考えている。会話による会員相互の交流については、今後の課題(チャット機能・Q&A 機能の活用)と考える。

(4) Web 研修会等を開催するにあたり、専門業者が入ったと思うが、その業者の選択理由があれば教えて頂きたい

A: Web 会議システムの導入を検討した中では、Microsoft Teams や Webex など検討したが、見積り金額と 24 時間サポート・録画機能の他、支部として初めて試みる Web 会議やオンデマンド配信の運用支援の手厚さと他学会運営などの業務実績を鑑みて、V-CUBE 株式会社「Zoom ミーティング Pro プラン(5ID)+Webinar500(1ID)」の採用を常任理事会において決定した。

2) 学術関係(学術委員会含む)

(1) 昨年同様に感染拡大の状況であればオンデマンド配信の方が多くの会員が参加できるが、感染状況が落ち着いた場合は集合型で開催されるのか。また、ハイブリッド型(集合型+Web)で開催し、会員

が視聴方法を選択する事ができる方式の運用は可能なのか

- (2) 各専門学会等と同様にハイブリッド型（現地参加型+Web 方式+オンデマンド配信）での研修会の開催について
- (3) 集合型の研修会が難しければ Web 方式の研修会を積極的に進め、情報提供をお願いしたい
- (4) 技術的な面を取り入れて、ハンズオンセミナーを企画してほしい
- (5) 交通費や移動時間も考慮して今後も Web での研修会等の開催を期待したい

A: (1)から(5)について新型コロナウイルス感染症の状況次第で Web 方式、オンデマンド配信、集合型（現地参加方式）を使い分けていきたい。ハイブリット方式については費用対効果を考えると支部としては行う予定はない。ハンズオンについてはコロナの感染状況を考慮して今後検討させていただく。

- (6) 今後の研修会の開催方法について Web 中心としていくのか、参加型とのすみわけを教えてください。判断基準があるのか。

A: 来年度は Web 方式とオンデマンド配信を中心に研修会を開催する予定。新型コロナウイルス感染症の状況次第で集合型（現地参加方式）についても検討していく。

- (7) オンデマンド配信だけだと臨場感がないので、ライブ配信で開催する会もあるとよい

A: 令和 3 年度症例検討会はライブ配信を予定している。積極的な参加をお願いしたい

- (8) 学会および研修会等の配信期間をもう少し長くしてほしい

A: オンデマンド配信の期間は、現状 2 週間としている。要望が多ければ期間を延長することは可能。また研修会資料は原則アーカイブ資料として貸出可能である。

- (9) 事業方針案にもある法改正による業務拡大の研修会はどのような内容を予定しているのか

- (10) 新型コロナ感染者数が減少しているとはいえ、まだ Web 研修を続けていただきたい。オンデマンド配信は空き時間に学習できるのでよいと思う

A: (9)および(10)について、法改正（タスク・シフト）による業務拡大の研修会は日臨技の協力が必要となる。日臨技からの実技講師派遣については、座学修了者 60 名以上を対象に都道府県単位で行えると聞いている。会員 60 名以下の地区会もあるため、支部では日臨技を介しての対応は行わない。今後、業務拡大に伴う研修会の開催については検討していく。

- (11) 研修会ライブラリ活用状況について

A: 来年度は Web 方式とオンデマンド配信を中心に研修会を開催する予定。新型コロナウイルス感染症の状況しだいで集合型（現地参加方式）についても検討していきたい。ハイブリッド方式で開催した場合は、会場にどれだけの会員が集まるかは不透明であり、費用対効果の面を考えると、支部として行わない方針である。開催方法については集合型+オンデマンド配信を推奨したい。令和元年度に新潟地区会からの貸し出し申請が 1 件あったのみとなっている。

(12) 学術委員会の活動内容が不透明であり、もっと会員に情報発信をして頂きたい

A: 現状としては、年度ごとに学術委員会の活動状況をホームページに掲載し、会員に周知している。今年度は学会（学会賞選考・分科会）、研修会のサポート、支部ニュースの Case study、Q&A の対応等積極的に活動を行った。

(13) Q&A の利用実績の低さについて何か対策をされているのか。年に数件の利用に必要なものか

A: 手続きの見直しについては、今後検討を行い利便性の向上に努めていく。現状としては、令和 3 年 11 月 4 日輸血検査部門に対して東京地区会会員より「血液製剤運搬時管理方法について」質問があった。回答はホームページに掲載済み。

(14) 「学術委員会への質問がしづらい」質問内容、質問者の公開に疑問。個人が疑問で質問した情報を共有する必要があるのか。

A: 会員から同様の質問があった場合に情報が公開されていると、その場で確認できる利点もある。質問者等の情報については、個人情報でもあり、必ずしも公開しなくてよいと考えている。今後の検討課題としたい。

(15) 質問や相談するのに、ちょっと敷居が高いような気がします

A: 運用手順等については、学術委員会と協議して来年度の課題としたい

(16) 人数が多すぎないか

A: 来年度、学術委員会部門員の改選が行われるので、活動内容などを検証して、学術委員会規程（第五条委員）の改訂を検討したい。

(17) Web+オンデマンド配信で研修会を増やしてほしい。今までと同様に、大きい施設ならではの検査情報や知識、他施設の工夫などの発信を継続してほしい。

(18) Web+オンデマンドを定着願いたい

A: (17)および(18)について来年度は Web 方式とオンデマンド配信を中心に研修会を開催する予定。今年度も、12 月に開催した第 3 回研修会では国立成育医療研究センターに「新型コロナウイルスについて」、2 月に開催する症例検討会では、国立国際医療研究センター病院生理検査室にご協力を頂いて「救急症例」について症例提示と解説をお願いしている。今後も、学術委員会のお力をお借りしながら検査情報や施設での取り組みなど情報発信に努めていく。

(19) 他の地区会研修も視聴可能な運用はできないか

A: Zoom のシステムとしては、他の地区会研修についても設定を行えば視聴可能ではあるが、他地区の研修会に参加可能かについては、研修会を開催する地区への確認が必要であり、双方で話し合いをして頂きたい。地区会が開催する研修会の予定については、支部事務局に事前にご連絡いただければ、ホームページ等に掲載は可能である。

- (20) 参加者が自由に選択できるハイブリッド開催方式はいいのではないか
- (21) ハイブリット(集合+Web)方式は可能か。その場合、ウェビナーの契約と会場運営の両者の外部委託契約とするのか
- (22) 各専門学会等と同様にハイブリッド型(現地参加型+Web方式+オンデマンド配信)での学会の開催
- (23) 今年のやり方はよかったと思う。今後、対面式で行ったとしても、ライブ配信やオンデマンド配信などハイブリッド型で行うとよい
- (24) コロナ終息後もオンデマンド配信は続けてほしい
- (25) 現地集合型の方が議論は進むと考える。ハイブリッド開催が良いと思う
- (26) 対面方式では発表が重なって聴講できないので、今後もWeb+オンデマンド配信を継続してほしい
- (27) オンデマンド配信は当日参加できなかった人にはとてもいいツールですが1週間の配信では少し短いのでは
- (28) 遠方の会員が、移動時間を費やすことなく参加できる方式であるので、集合型が可能となっても、Webを活用した、ハイブリッド型開催の継続を検討してほしい

A: (20)から(28)について、ハイブリッド方式で開催した場合は、会場にどれだけの会員が集まるかは不透明であり、費用対効果の面を考えると、支部として行わない方針である。開催方法については集合型+オンデマンド配信を推奨したい。オンデマンド配信期間については、現状2週間としているが、延長のご要望があれば対応は可能である。

- (29) 学会発表者への連絡事項(スライド作成方法、発表の方法など)や発表当事者への連絡がなかなか来ず、不安になり問い合わせ確認した例があった。初めての試みの時は特にご配慮をお願いしたい。
- (30) 今回初めての試みが沢山あったが、座長や、発表者への打ち合わせが少なく、不安になる場面があった

A: (29)および(30)について、初めての試みのため連絡等が遅くなってしまった。今年度の教訓を生かして、次年度の学会で対応に努めて行く。

Q: 今回、選出された座長が担当している業務と発表セッション内容が多岐にわたっていた。今後は分野ごとの座長を組み合わせさせていただきたい。また発表施設と座長の施設が重ならないよう選定していただきたい。シンポジストについては広報関連で掲載がされていないので、名前ぐらひは掲載していただきたいと思う。

A: 次回の学会では改善に努める

- (31) 地区会ポスターコーナーは今回のような方式が各地区の負担減(金銭的、作製行程、作製期限等)に繋がり、次回の学会が参加型となったとしても来年度も同様に検討願いたい
- (32) 地区会コーナーは不要、各地区新人紹介(転勤者除く)企画のみで良いと思う

A: (31)および(32)について、学会特設サイトを設け、PDF(PowerPoint版)という形で地区会ポスターを作成していただき、Webを利用した各地区会による交流の場を提供できた。来年度についても同様の方法で行うことを予定している。ご協力をお願いしたい。

(33) 第 50 回関信支部学会の記念学会としての企画などは計画しているのか

A: 第 50 回の記念学会となるため、新たに EventIn 配信 (V-CUBE) や特別講演等も企画する予定でいる。9 月 3 日 (土) に開催を予定しており、学会テーマは「未来への跳躍～過去から学び未来へつなぐ～」である。ご支援とご協力をお願いしたい。

(34) 参加人数把握について(施設によっては代表者がログインしているため全参加人数の把握が出来ていないのでは。施設で何人参加したか代表者に確認するか、各自で必ずログインして下さいなどの事前のアナウンスが必要ではないか。)

A: 現在は Google フォームを用いて参加人数および日臨技生涯教育研修制度自己申告申請を行っている。ご協力をお願いしたい。

(35) 学会発表時の Q&A で質問は限界があるのでは (文章の長い質問は入力にも時間がかかるので、やはりリアルタイムでの質問方がいいのではないか)

A: Zoom ウェビナーを使用した場合、リアルタイムに質疑が行えるツールがない。今後の検討課題とする。

(36) Web 方式でも参加費用は徴収してもいいのでは

A: 第 50 回支部学会については、Web 方式で学会を開催する予定で準備を進めている。令和 4 年度の会費は減額する予定はなく、原則参加費は徴収しない方針である。

(37) Web+オンデマンドを定着願いたい

A: 支部学会については、伝統もあり、今後も継続していくことになる。しかし、開催方法やプログラム等については、時代に合わせて変えていくことが求められると考えている。

3) 広報関係

(1) 支部ニュース投稿原稿の依頼については提出期限に余裕を持って頂きたい

A: 原稿依頼の目安は、基本的に 1 か月程度と考えているが研修会等の日程や執筆者の人選等の関係で提出期限に余裕がない場合があり、ご迷惑をおかけしている。今後は事前に執筆者を選定する等の対応をし、1 か月程度の執筆時間が確保できるよう努める。

(2) ホームページの閲覧は研修会や学会時に多いと思うが、それ以外の期間での利用者向上のための工夫や取り組みがあれば教えて頂きたい

A: ホームページ更新時に、施設連絡責任者宛に更新内容をメールにて配信し、アクセス向上に努めている

(3) 会員専用ページに Q&A などのバナーを設置するなど可能か(学術委員会の Q&A とは別)

A: バナー作成には、画像素材の用意、デザイン、サイズの設定など高度な Web 技術が必要であり、個人で運営管理するホームページに、新規で作成し、設置するのは難しいと思われる。

- (4) 会員専用ページに支部ニュース以外の情報掲載(専門職よりの情報提供、会員よりの情報提供など)掲載期間の設定が可能でインフォメーション的な情報共有できるバナーの設置はどうでしょうか。

A: 会員専用ページに、支部ニュース以外の情報掲載は、現在もできる限り行っている。

去年は専門職よりの情報提供として、COVID-19 関連情報の掲載を行った。掲載期間の設定等、技術的に高度になると個人の運営管理では限界があるので、外部委託することも検討することになると思われる。外部委託した場合、更新内容によるが、毎月数万円程度はかかると予想される。

- (5) 閲覧しやすい

- (6) 研修会がホームページからの利用となりアクセスする機会が増えた

- (7) 利用しやすくなったと感じている

- (8) 更新情報をメール配信してくれることにより、閲覧意欲が向上したと思う

A: (5)から(8)について、今後も閲覧のしやすいホームページ運営を継続するよう努める。今後もアクセスの多いページに関しては、トップページから直接アクセスできるよう努める。(7)および(8)について今後も更新情報のメール配信等、会員の利用しやすいホームページ運営を心がけていく。

4) 文化活動関連

- (1) 飲食を伴わない交流会の開催

- (2) 集まるのは新人と年齢層が上の人が多いので、中間層の参加が多くなるとよい

A: (1)および(2)についてコロナ禍・after コロナにおける検討事項と考える。Zoom ウェビナー契約により Web を用いた交流を検討する一方で、集合型開催が可能になった際に検討したいと考える。

- (3) 他地区、施設の方と交流できる数少ない行事であるため今後も行ってほしい

- (4) 新型コロナが終息したら再開してほしい

- (5) 令和4年度の文化活動においてもコロナの影響が大きいかと思いますが判断基準と開催時期についてお聞きしたい(特に直近の支部定期総会と合同交流会はどうでしょうか)

- (6) 合同交流会は何時からあの形になったのでしょうか。転勤でお世話になった退職者へ、お祝いやお世話になったお礼を込めた原点に戻る必要があると思う。会員登録していない退職者に会った事もない新人を同調圧力で参加させている感が否めない。新人をひっぱり出すのは研修会や支部学会からで良いと思う。

- (7) ビアパーティーは今の時代、不要ではないかと思う。

A: (3)から(7)について、支部提出議題 事務局関連にて回答

5) その他

- (1) タスク・シフト/シェアについて、支部としてどのように関わっていくか教えてほしい

- (2) タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(実務講習)を関信支部で企画できないか。

60人以上の参加者がある場合は日臨技より講師派遣が可能と聞いている。

A: (1)および(2)について、国立病院臨床検査技師協会（本部）の令和3年度事業方針（継続事業）の中に「タスク・シフト/シェアを考慮した医療の推進」があがっている。支部としては本部と協調しながら、日臨技が行う「タスク・シフトに関する厚生労働省関連講習会」への会員の受講状況などを見ながら研修会など対応を検討していきたい。実技講習については都道府県単位での講師派遣となるため、支部主催で行う予定はない。

Q: 職能団体で可能になった場合は前向きに考えていただきたい

A: 今後、学術委員会と話を詰めて前向きに考えていきたいと思う

(3) 計画的な理事の育成をお願いする

A: 今年度から、部門（事務局・会計・学術・広報）ごとにリーダーを設けて、リーダーを中心に会務（企画、運営、管理など）を行っている。また、すべての理事に、会務の割り当てを行い、業務の達成については三役が支援や指導などを行っている。会務については、定期的に引継ぎ書の改訂を行い、次年度会務の効率的な移行と教育に活用している。

(4) 医療機器整備について、今後の整備計画の情報や共同購入等に関する情報があれば教えてほしい

A: 機構本部において進められている医療機器共同入札については、以下の6機種において実施されている。

超音波診断装置、脳波計、心電計、生化学分析装置、血球計数器、全自動血液凝固測定装置

これらの機器を申請する際には、機会均等の原則に則り、透明性、競争性、公正性、経済性を確保するために一般競争入札に付することを原則としている。

共同入札は、「施設ごとに実施していた入札行為を、本部において実施する」、「同等の機能を有する2機種（以上）が入札に参加出来るよう、仕様書を作成する」、「各施設からの要望で、希望する2機種が同一の場合、一つの山として入札する」、「統一規格の機器を入札し、施設に分配することを目的としたものではない」

9. 関信支部提出議題

1) 事務局

(1) 合同交流会の廃止及び令和4年度集合型懇親会（ビアパーティー等）の中止について

A: コロナ禍により過去2年間開催できておらず、昨年度は中止に伴うキャンセル料が発生した。合同交流会は参加者の会費によって賄われる文化会であったが、前支部長の決断により支部会費からキャンセル料を支払った経緯があり、今年度も開催できる見込みはない。また会員数も688名と多くなり、会場の確保を含めて安定した運営自体が難しいと判断したため合同交流会の廃止を提案する。令和4年度集合型懇親会（ビアパーティー等）についても、新型コロナウイルス感染状況および例年の参加者（230名程度）を収容できる会場の確保が難しいこともあり中止する。

Q: 3月に退職される方々は合同交流会の準備や開催等で苦労されたことが予想できる。その方々が退職される時に支部として丁寧に説明していただけたらと思う。

A: 会を重ねる毎に主任以下の参加が少なくなっており、技師長や副技師長のみの参加が多くなった。また現状、再任用される場合も多くなり退職されてもそのまま継続して働かれる方も多く

なっている。提案という形にはなるが合同交流会については廃止にさせていただきたいと考えている。今回退職される方々には丁寧にご説明させていただく。

Q: 今回、地区会からの意見で廃止してもいいのではないかという意見も挙がっている。今回の令和4年度ということだが、令和5年度以降はどのようにするのか教えていただきたい。

A: 合同交流会の役割は果たされたと考えている。合同交流会自体、会員の参加費に賄われる会であったが、昨年度は中止に伴うキャンセル料を支部の会費より支払った。会員数も増えていることから支部で運営できる規模を超過しているのが現状であり、合同交流会の廃止をご提案しています。ビアパーティーに関しても、前回200名を超え会場の予約や運営をすることが難しくなっている。支部理事会で話している事だが、各地区会単位で同様な会を開催していただき、支部から金銭的な援助などを行い、支部役員も参加させていただくことも可能ではないかと考えている。各地区会の会員数（合同で行った場合を含め）の規模であれば会場確保も可能になるが、支部全体の会員数（668名）では、開催会場がホテル規模になり、開催費用が会費5,000円で賄えなくなっている。学会運営方法についても今後検討を行い、懇親の場を17時以降ではなく15時開始にすることや、学会参加費に予め懇親会費を含めるなどの工夫をして、会員の皆様が気軽に参加できる懇親の場を提供していきたいと考えている。

(2) 第50回国臨協関信支部定期総会（電磁的表決など）について

書面表決を予定しているが、国臨協本部と同様な電磁的表決も検討しており、今後の検討課題である。早急な提示ができるよう会務に努める。

(3) Web会議システム（ウェビナー）の契約継続について

関信支部としては三役・理事・相談役ともに継続が必要であると考えている。社会情勢を考えると、なくてはならないツールとなっているため、見積り金額と24時間サポート・録画機能の他、Web会議やオンデマンド配信の運用支援の手厚さと他学会運営などの業務実績と今年度に経験した知識・技術を次年度にも継続して提供していきたいと考えてV-CUBE株式会社「Zoom ミーティング Pro プラン（5ID）+Webinar500（1ID）」の継続採用を常任理事会において決定した。来年度の事業方針（案）に挙げる予定。

(4) 令和4年度国臨協関信支部会費（4,000円）について（報告）

討議事項と同じ回答になるが次年度はコロナ禍の現状を踏まえてZoomウェビナー契約を継続し、研修会（支部・地区会）、Web会議（支部・地区会）などに活用していく。また関信支部学会が第50回の記念学会となるため、新たにEventIn配信（V-CUBE）や特別講演等も企画する予定でいるため、会費の値下げは考えていない。原則、第50回記念学会の参加費は徴収しない方向で検討している。

2) 学術

(1) 第50回国臨協関信支部学会の開催方法について

第50回の記念学会となるが、コロナ禍で先が見えない状況を鑑みて新たにEventIn配信（V-CUBE）や特別講演等も企画する予定でいる。9月3日（土）に開催を予定しており、学会テーマは「未来

への跳躍～過去から学び未来へつなぐ～」で決定した。ご支援とご協力をお願いしたい。

(2) 令和4年度の国臨協関信支部主催研修会の開催方法について

次年度もWeb方式の研修会を積極的に取り入れていく。ライブ配信とオンデマンド配信は状況に応じて使い分けを行う。オンデマンド配信の期間（現状：2週間）については検討中である。次年度は第50回記念学会に専念するため、症例検討会は中止させていただく。

(3) 学術委員会部門委員の改選（任期：令和4年から令和5年度）について（報告事項）

今年度で現学術部門委員の改選を行うが、昨今の資格取得状況からして適任者を探すのに難渋しているため、基本的には再任の方向でお願いしたいが、惜しくも退任される方に対しては後任を推薦していただくようお願いをする。人数については、個々の業務量の負担を考えると現状維持としたい。

Q：現在学術委員の職員が後任もいなく辞めづらい環境になっている。後任を支部で選出できないか。

A：原則、後任については、“教えていただきたい”と言うお願いベースでの依頼になっている。

後任について推薦する会員の方をご存じなければ、“いない”と回答をお願いしたい。

規程では任期4年間で最長となっており、負担が大きいうでしたら退任していただいて問題はない。今後とも学術委員会の運営にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3) 広報

(1) 情報（研修会開催案内など）を更新した際の施設連絡責任者への配信方法について

現在、研修会開催案内等を更新した際に施設連絡責任者にメールにて配信しているが、スタッフに伝達する方法等をお教えいただきたいのと研修会等の各施設における閲覧数や参加率等を研修会後に公表する是非について、地区代表者様からのご意見を伺いたい。

本年度において、支部学会および研修会等をWeb方式とオンデマンド配信で開催した。集合型による時間の制約や交通費等の問題も解消され、会員の皆様方には参加しやすいようになったのではないかと考えている。

いろいろな状況があると思われませんが、施設によって参加率の差が大きいことも把握しており、もっと会員の皆様に閲覧していただきたいと願っている。

そこで、参加率向上の一助となればと考え、施設ごとの参加人数、参加率のリストをメールで配信することも検討しているが、賛否について地区会代表者の皆様からご意見をいただけたらと考えている。

茨城地区会回答

特に反対という意見はない。

研修会の周知は回覧で行っており、押印をお願いしている。しかし出席に関しては関与していない。

栃木地区会回答

参加率のリストを用いて、競争意識で研修会への参加させることがパワハラ状況になると思われ、懸念される。

群馬地区会回答

反対。支部で参加率を理解されているのであれば充分と考える。

研修会はリーフレットを印刷して周知しているが、参加状況に関しては伺っていない。

埼玉地区会回答

研修会はメール配信、主任会議、全体会議等で周知している。

参加率のリストに関しては、あくまで情報提供としていただければと思う。あとは職場長の判断で良い。

千葉地区会回答

賛成。当院は誰が参加したか把握しており、内容にもよるが全員理解している。参加率のリストにより個人のモチベーション向上に繋がることも予想されるが施設によってはパワハラに繋がること予想される。あくまでも情報提供として職場長が利用すればいいのではないかな。

東京地区会回答

反対の立場である。やり方が上目線である。ただ情報として知りたい施設には配信すればいいのではないかな。研修会の周知は院内メール、回覧を押印していただくことで行っている。

東京・山梨地区会回答

研修会の周知は回覧して押印をいただくことで行っている。

参加率のリストに関しては難しいと思いますが、参加率の向上には繋がらないと思う。参加率向上として考えると強制的になるので全体配信ではなく、施設毎に施設の参加率を提供するのであればいいと考える。

神奈川地区会回答

ミーティングやリーフレットを見えるところに掲示して研修会を周知している。

参加率のリストに関しては、施設に番号を連絡したうえで、施設名を番号化した形であれば働きかけの強化になるのではないかな。

新潟地区会回答

研修会の周知はメール配信、回覧で周知徹底している。

全体の参加率は必要なく、施設毎の配信でいいと思う。また研修会が終了した後に配信するのではなく、研修会半ばでいただくことで自施設内における情報提供の場として活用できると感じている。

長野地区会回答

参加率のリストについて、情報をいただくのはいいと思う。

研修会の周知はメール、施設の委員会による周知システム、検査科内の勉強会参加目標を設定することで行っている。

10. 相談役挨拶（前島相談役）

本日は長時間の会議お疲れ様です。地区代表者の方々からいただきました貴重なご意見につきましては関信支部内において再度ご検討いただきたくて今後の活動に活かしていただきたく思います。また関信管内はとても広く、会議や研究会、学会等で集合するにも今までは交通費が必要であり行動時間も必要でありました。今回、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から行動制限を経験し、Web という新しいツールを活用することにより以前より距離を感じることもなく様々な行事に出席できる時代となりました。今後は今まで以上に各地区会と関信支部が寄り添いながら様々な行事を推進して行っていだけたらと思います。

11. 閉会の挨拶（椎名副支部長）